

マニュアル改定ポイント

マニュアル区分		旧マニュアル(第3版)	新マニュアル(第4版)																														
		平成14年10月	平成26年8月																														
改訂ポイント1	盛土材料	最大粒径 300mm 細粒土において、シルト、粘土の低液性限界は適用可(○) シルトの高液性限界は適用に注意(△)	最大粒径 <u>250mm</u> 細粒土において、 <u>高液性限界は適用不可(×)</u> <u>コンシステンシー指数(Ic)が1.0より小さい場合は適用不可(×)</u>																														
改訂ポイント2	設計「基本事項」	耐震設計 設計水平震度 内部安定・外部安定・円弧すべりに用いる設計水平震度は“擁壁工指針”に準拠	耐震設計 設計水平震度 内部安定・外部安定に用いる設計水平震度は“ <u>擁壁工指針</u> ”に準拠(但し、外部安定においては補正係数($\gamma=0.7$)を乗じた修正設計水平震度を用いる 円弧すべりに用いる設計水平震度は“ <u>盛土工指針</u> ”に準拠																														
		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地震動</th> <th colspan="3">地盤種別</th> </tr> <tr> <th>I種</th> <th>II種</th> <th>III種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中規模地震動</td> <td>0.12</td> <td>0.15</td> <td>0.18</td> </tr> <tr> <td>大規模地震動</td> <td>0.16</td> <td>0.20</td> <td>0.24</td> </tr> </tbody> </table>	地震動	地盤種別			I種	II種	III種	中規模地震動	0.12	0.15	0.18	大規模地震動	0.16	0.20	0.24	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地震動</th> <th colspan="3">地盤種別</th> </tr> <tr> <th>I種</th> <th>II種</th> <th>III種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル1地震動</td> <td>0.12</td> <td>0.15</td> <td>0.18</td> </tr> <tr> <td>レベル2地震動</td> <td>0.16</td> <td>0.20</td> <td>0.24</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">外部安定の地震時検討においては、上記の値に補正係数($\gamma=0.70$)を乗じた修正設計水平震度($0_{k,design}$)を用いる。</p>	地震動	地盤種別			I種	II種	III種	レベル1地震動	0.12	0.15	0.18	レベル2地震動	0.16	0.20	0.24
地震動	地盤種別																																
	I種	II種	III種																														
中規模地震動	0.12	0.15	0.18																														
大規模地震動	0.16	0.20	0.24																														
地震動	地盤種別																																
	I種	II種	III種																														
レベル1地震動	0.12	0.15	0.18																														
レベル2地震動	0.16	0.20	0.24																														
改訂ポイント3	設計「内部安定」	内部安定のタイバー長 主働崩壊線からアンカープレートまでの定着長(ℓ_2) 1.2m	内部安定のタイバー長 主働崩壊線からアンカープレートまでの定着長(ℓ_2) <u>1.0m</u>																														
改訂ポイント4	設計「外部安定」	仮想背面の考え方 最下段タイバー長から鉛直な直線	仮想背面の考え方 補強領域底面上で <u>最下段アンカープレートと最上段のアンカープレートを結んだ直線</u>																														

マニュアル改定ポイント

マニュアル区分	旧マニュアル(第3版)		新マニュアル(第4版)	
	平成14年10月		平成26年8月	
改訂ポイント5	設計 「外部安定」	仮想背面における壁面摩擦角 $\delta = \beta$ (仮想背面の法面傾斜角)	仮想背面における壁面摩擦角 $\delta = \phi$ (<u>内部摩擦角</u>)	
改訂ポイント6		地震時土圧 ・地震時慣性力+常時土圧 ・地震時土圧のみ(慣性力は考慮しない) の2ケースを検討	地震時土圧 <u>地震時慣性力+地震時土圧</u> のみ検討	
改訂ポイント7		支持力安全率 常時 $F_s=2.0$, 地震時 $F_{se}=1.5$	支持力安全率 常時 $F_s=$ <u>3.0</u> , 地震時 $F_{se}=$ <u>2.0</u>	
改訂ポイント8	設計 「円弧すべり」	円弧すべり検討 補強領域内には疑似二重壁の拘束補強効果を期待した補強せん断強度増分 α を考慮	円弧すべり検討 すべり面を横切りすべり面とアンカープレートとの距離がアンカープレートの辺長の2倍以上となる補強材は <u>抵抗モーメント</u> として考慮	
改訂ポイント9	構造細目	最小タイバー長 内部安定及び外部安定を満足する長さとし 施工性を考慮し $L=2.5m$	最小タイバー長 <u>0.4Hかつ2.5m</u>	
改訂ポイント10	施工	締固め品質管理 最大乾燥密度に対して90%以上	締固め品質管理 最大乾燥密度に対して <u>95%以上</u> (A法またはB法) 最大乾燥密度に対して90%以上(C, D法またはE法)	